

現在まで現会長を含めて24名の会長がいらっしゃいます。



歴代会長経験者から一言（70周年記念パンフレットより）

第10代会長：濱田 邦彦 先生

あれから10年、これから又、10年、激動の日本、世界の人類は今後どのように生きるのか？【歴史に学び、歴史に立ち向かう】多くの人々の健康を守る、健康は口からと。爆発的な老人社会を迎えている我々の医療業界、1960年歯科医師会入会し、57年間の長き現役会員の声を改めて伝えたい。取り巻く医療業界は決して甘くない！！県歯会にて長い間の各種役員、初期の歯科技術専学校での教鞭など懐かしい限りである。第3代会長だった父、国雄の言葉[開業医は体が資本だよ]と。これらの事を若き会員諸兄に強く伝えたい。多くの会員物故者の霊に心から感謝。

第12代会長：末原 照臣 先生

新緑の候、先生方には会務に、そして診療に御精励のこととお慶び致します。都城歯科医師会70周年を迎えるにあたり、その祝賀会を開催される事、誠におめでとうございます。70年という長い年月を経て来た間には、いろいろな事があったことと思いますが、先輩の先生方の御努力により、ここ迄発展して来ました事を心よりお喜び致します。過ぎし日を思い、感慨深いものを覚えます。最初は少人数でありましたでしょうが、今では、その何倍もの会員の先生方が増して、益々会の隆盛を感じられ、頼もしく思っています。今後共、都城歯科医師会が一層の発展を致しますことを心より祈念致します。

第13・17代会長：濱田 康彦 先生

都城歯科医師会が創立70周年を迎えるにあたり心よりお祝いを申し上げます。私が入会したのは、昭和28年1月でありました。それから63年、長い会員であります但振り返り大きく記憶に残るのは、会員35名で都城市北諸県郡歯科医師会館を直営工事で会員もコンクリート打ち作業や材料の買付け等に出かけ、昭和35年1月竣工させたことであります。会長就任は、昭和54年～56年と4年後で任期3年となった昭和60年～63年の5年間でありました。執行部全員の協力と、会員の信頼のもと会員相互の融和の基礎造りをしたと自負しています。平成10年5月創立50周年記念式典及び祝賀会が都城北諸県1市5町の後援を得て盛大に行われた時の八田公文会長より実行委員長を命ぜられました。あれから20年経過しました。今回の70周年にも健康で参加できたことに感謝です。

第18代会長：山崎 頼任 先生

私は、18代会長を任せられました但、任期一期三年制になって、二期目で会員数約40名の時でした。私の執行部で行ったことは、①会の組織改革（会員全員参加型委員会設立）、②会費値上げ（6,500円→9,000円）、③衛生士学院設立、④会館改修、⑤通信の簡素化（ファックス通信）等々でした。時の執行部でいろいろ御苦勞があると思いますが、時代の趨勢を見極め、会員の融和を基に、益々立派な会に成長されますことを、心から祈ります。

第19代会長：曾我 恒夫 先生

私が会長職を辞して早や20年が過ぎた。思えば、対立により日齒は多大な迷惑を会員にかけた。又、県齒も同様であり我が都城でも約40年前まで続き、それが一応終息しても約10年は、会そのものが疲弊した状態でいた。現在、当時の事を知らない会員も多い。又、もうひとつ、当時の会の運営は理事のみで、その予算、執行率（30%）も低く無事に運営する事のみであった。その為、新しい企画や行動が出来ないままであった。そこで、会員参加による会の運営が必要と考えて、まず、会員参加の拡大各種委員会を作り、役員と委員に対して職務の分離、分担と、その責任を明確にして活動しやすくした上で、より思考した企画を期待した。そして、会員には会務の理解と協力を求め、又、対外的（行政、市民）活動を行ってもらい、マイナー的な会からメジャー的な会を目指す事とした。

第20代会長：八田 公文 先生

会の50周年を担当させていただきましたが、会員の先生方には実行委員会まで立ち上げ、記念誌、講演会、祝賀会と立派に成し遂げて、感謝の気持ちで一杯です。委員会の方達の企画力、実行力には凄いものがありました。副会長を始め、専務、各理事、名誉委員長、各委員、又会員の先生方、本当に有難うございました。裏話になりますが、金額をどうするかで、当時、行政と折衝する機会も多かった環境も手伝って、補助金も引っ張り出す、これだけは会長の仕事と割り切り、いろんな所に顔を出して頑張ってみた次第です。結果は力不足でしたが、最近は補助金も厳しく、隔世の感がします。あれから20年経ちましたが、あの圧倒する程の団結力は今も脈々と息づいていると思います。

第21代会長：荒武 萬公 先生

この度、都城歯科医師会創立70周年を迎え、誠に慶賀にたえません。私が昭和43年入会以来、大先輩の先生方から会の存在意義を学び、そして公私共に相談に優しく教えて下さいましたことなど数々のこと忘れることは出来ません。そして、何時の間にか終身会員も、遠に過ぎてしまいました。振り返れば、色々役職を致しましたが、21代会長を2期6年（2003.4.1～2009.3.31）も経験させてもらいました。その折の会員先生方の協力を忘れることは出来ません。最後に私達は自分で選んだこの職業は天職であります。どうか愚痴を忘れ自分の資性を活かし公私共に活躍され会員諸先生のご健勝と、本会の発展を祈念します。

第22代会長：田中 義哉 先生

私の任期は平成21年4月から平成25年6月20日までで、少しほかの会長と任期期間が違っていています。それは小泉内閣で公益法人改革が決定し、歯科医師会まで改革を強要した為です。この時期は全国の法人格を持った全ての団体が右往左往して混乱していました。法律の素人がこの改革を自分達でできるはずもなく、県齒と協力して東京の辻・本郷会計事務所をお願いすることになりましたが、定款変更は自分達でするようにとのことで約束が違うと思いましたが、料金の問題もあり自分ですることになりました。期日が迫る中、各地の歯科医師会の改正案を参考に三四日で作り上げたのを記憶しています。今考えるとあの法人改革は日本のためになったのか甚だ疑問を感じます。多くの小規模歯科医師会が解散し組合形式になってしまいました。私たちの社団法人都市北諸県郡歯科医師会是一般社団法人都城歯科医師会として生まれ変わりました。これからの都城歯科医師会の益々のご発展を祈念いたします。